

情報公開条例改正問題

県警案だとどうなるの?

仙台市民オンブズマン事務局長

庫山恒輔

この人に聞く



現行情報公開条例では、「公開する」とにより、犯罪の予防又は捜査、人の生命、身体又は財産の保護その他公共の安全と秩序の維持に支障が生ずるおそれのある情報」(条例八条四号)は、非公開にする事が出来るとされています。この判断をするのは「実施機関」です。今度の条例改正で公安委員長、警察本部長が「実施機関」に入った場合は、当然のことながら警察保有の文書については県警本部長らがその判断をすることになります。知事が判断すると誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。



マスコミも注目の情報公開条例改正問題

県警は、この判断の是非が裁判で争つては県警本部長らがその判断をすることになります。知事が判断すると誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

この判断をするのは「実施機関」です。今度の条例改正で公安委員長、警察本部長が「実施機関」に入った場合は、当然のことながら警察保有の文書については県警本部長らがその判断をすることになります。知事が判断すると誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

県警は、この判断の是非が裁判で争つては県警本部長らがその判断をすることになります。知事が判断すると誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。

誤解する向きもありますが、それは明らかな間違いです。



ブサコ・パレス・ホテルのワインのラベル

Q、オンブズマンの活動で印象的だったことは?
A、医療問題。裁判に限らず医療事故を防止し、よりよい医療を市民に提供するシステム作りに取り組みたい。

Q、弁護士にならなければどんな職業についていましたか?
A、小説家。いまもあと・〇年位で弁護士をやめて何か書きたいと思ってますか?
A、子どもと遊ぶ。

オンブズマンの横顔② 坂野智恵弁護士



第2回は、若手2番(?)手の坂野智恵弁護士です。いつも淡々として活動しているように見受けられます。でも8才と3才の2人のお子さんをもつお父さん。とてもやさしくてあたたかい一面をみせていただきました。

王宮ホテル、伝説のワインの味 グラス傾けて旅・ホルトガル編(完) 唯野有忠



他の街で飲んだワイン、大西洋のワインの炭火焼「天国のような街」を、しかも三つも見つけたホルトガルの旅。日本が、何故か深い共感と安らぎにつまられるこの国を、もっと語りたいが、残念ながら、紙数が尽きた。次はワインを飲みながらに……。

さて、ポルトガル・ワインの続き。長らくお待たせしました。(誰も待っていないかな?)ここはユーラシア大陸の西の果て、ポルトガルの山の中。王宮を改装した豪華ホテルのレストランでの夕食の場。白ワインを飲み終えて、待望の赤ワインである。赤はかなり前に開栓され入るわけにはいかない、との思いが強まるばかりです。

わざ訪れる価値がある」と、何やら、ミシュラン風の賛辞を呈したのもうなづけられる。香りは複雑だが樹脂や乾燥フルーツなどの快い香りで、味はマイルドな酸味と中位のコクがあり、まるやかでバランスが取れ、骨格がきちんとしている。私の好きなタイプだ。ちょうど同じ七八年のフランスはボルドーの上質なワインを飲んでいるような味わいであった。

納得。満足。しあわせ!「ここに莘あ（アシカ）ナリ」と立ちあがつて歌いたい心境でもあった。

所で、ここまでお読みの方は、「一体値段はナンボほどじや?」とお聞きになりたいでしょう。お待たせしました。

白が一本、二千エスクード、赤が一本一万エスクード。チップ込みで、一万三千エスクードを支払う。百エスクードが「うまい」さすがはワイン評論の大先生が、ここでしか味わえないワインを、「これを飲むために、このホテルをわざわざ重ねて出の一つが生まれた。